

セーブ・ザ・チルドレン 子ども・地域おうえんファンド
 第1回公募 採択理由一覧 (ABC/五十音順)

事業名	子どもがエンパワーされ、そのプロセスで大人もエンパワーされる居場所づくり事業
団体名	特定非営利活動法人 TEDIC
対象地域	宮城県石巻市
事業概要	本事業のゴールは「子どもがエンパワーされ、そのプロセスで大人もエンパワーされる居場所づくり事業」である。スタッフと子どもたちが一緒に先進事例の視察や見学を実施し、居場所事業において子どものやりたい事や体験の実現に取り組む。また、先進事例を場の中で実践し、その事例を報告会などで可視化し、地域の保護者や学校、行政にも参加を促す。そして、最終的には子ども自身が困難を乗り越えてこの地域で暮らしていきたいと思える地域を創り、支援される側から地域を担う一員へとシフトチェンジし、地域の再構築を担う存在となることを目指している。
事業期間	2023年1月1日～2025年9月30日
助成額 (1年目)	4,786,800円 (内訳：事業費 4,470,000円、一般管理費 316,800円)
選定 ポイント	子どもの権利実現という視点が明確であり、子どもの声が社会に活かされていく過程が書かれていたところに魅力を感じた。子どもが自分たちで企画・視察など、子ども主体・参加での居場所づくり、子どもがエンパワーされ、大人がエンパワーされ、地域を力づけていくということが評価できる。また事業を通じて社会を変えるための政策提言が計画されている点も評価できる。

事業名	LGBTQ の子どもにとっても、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」を実現する
団体名	特定非営利活動法人 ReBit
対象地域	日本国内 (全国)
事業概要	小学校から高校までの教科書の半数以上に LGBTQ が掲載された次のステップとして、年に1日 LGBTQ について教わるだけでなく、残りの 364 日の学校生活が LGBTQ の子どもたちにとっても安全であることを目指した事業である。そのためにも、授業ができ、主体的に学校環境を変え、相談支援ができる教職員の育成を目指している。同時に、地域に LGBTQ のセーフスペースを増やす、行政への LGBTQ 施策の助言や伴走を行う、アドボカシーにつなげるために学校や LGBTQ ユースの現状調査を行うといった計画もある。
事業期間	2023年1月1日～2025年9月30日
助成額 (1年目)	5,000,000円 (内訳：事業費 4,500,500円、一般管理費 499,500円)
選定 ポイント	現在においてもなお日本社会の中では性的マイノリティに対する偏見が現存し、法的整備が十分ではない中で、必要性の高い事業である。また課題意識が明確であり、これまでの LGBTQ の若者支援の実績と実施内容を教育に絞っている点は評価できる。さらに、団体が成長を続ける中でフェーズが変わりつつある今、サポートすることの意義を感じる。

事業名	地域がつながる としま学校カフェ
団体名	特定非営利活動法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
対象地域	東京都豊島区
事業概要	<p>多くの子どもが入学時には登校している中学校で、不登校・ひきこもりの予防対策として学校カフェを実施する。早期に地域資源につなぐことで、自己肯定感、自尊感情を育める第三の居場所を提供することを目的としている。また、この事業を通じて、地域と学校の連携にも寄与することを目指している。</p> <p>上記事業に加えて、地域住民が子どもの権利について考え、ディスカッションする機会を提供するために小円卓会議を開催する。地域を形成している多様な大人や若者が子どもの権利を学び考える場を創り、子どもが抱える課題を知り、大人ができることなどをともに考えることによって、地域住民の意識を醸成することを目指している。</p>
事業期間	2023年1月8日～2025年9月30日
助成額 (1年目)	3,365,000円（内訳：事業費 3,060,800円、一般管理費 304,200円）
選定 ポイント	理念と実現の手段も明確で矛盾がないことが評価できる。また、これまでの地域での実績が充実していることは大きな強みである。加えて子どもの権利の実現の観点からも、子ども・地域の大人たち・制度に働きかけていく必要があるという理解がある。事業内容においては、当事者がスティグマを感じずにいられる雰囲気づくりを心掛けていることが魅力である。

事業名	仮放免高校生サポート・プロジェクト—私たちはあなたたちを見捨てない
団体名	一般社団法人 反貧困ネットワーク
対象地域	東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、群馬県、栃木県、茨城県
事業概要	<p>本事業は、在留資格のない仮放免の高校生に公立高校への進学・学習継続を支援するプロジェクトである。前に踏み出そうとすると、日本にはいけない存在だからと目の前でシャットアウトされることで、自己の存在価値を否定される苦しみと無力感は経済的困難を上回る。仮放免高校生が尊厳を持って生きることは、学費を支援するだけでは達成できない。大学生チューターが伴走し、相談に乗ることで、日本社会に見捨てられていると思わされてつらい経験をする高校生が進路への展望を持てるようにすることを目的とした事業である。</p>
事業期間	2023年1月1日～2025年9月30日
助成額 (1年目)	4,942,500円（内訳：事業費 4,942,500円、一般管理費 0円）
選定 ポイント	脆弱性が特に高く、アクセスの難しい対象に対する必要な支援だと感じ、課題意識を高く評価した。またこれまでの在住外国人支援の実績から、ほかの団体にはまねのできない活動である。貧困という視点から見ても、知識・経験のある専門家がネットワークを作っていくという意義や、社会的に認知度の高くない仮放免者への理解を深める意義も感じられる。事業実施のタイミングとしても、進学などを通じて在留資格を取得する仮放免者も出てきている今が重要な局面である。